



入学を祝して

歯学部長 前田 健康

平成23年度新入生の皆さん、入学おめでとうございます。歯学科40名、歯学科3年次編入生5名、口腔生命福祉学科20名、口腔生命福祉学科3年時編入生6名の新入生を迎え入れることができましたことは、私ども新潟大学歯学部教員にとってもこの上もなく喜ばしいことであり、また保護者の皆様の喜びもひとしおと拝察いたします。これから、日々進歩する歯科医学・医療、口腔保健医療・福祉学を学び、学生諸君と教職員とともに新潟大学歯学部の新しい歴史を築いていきましょう。

諸君が選んだ新潟大学歯学部の使命は、専門職業人の育成です、この使命を果たすために、さまざまな工夫を凝らした教育カリキュラムが編成されています。特に、新潟大学歯学部では「学生自身が自ら学ぶ」ということを教育の柱としています。君たちが大学生活で学ぶ講義、実習の内容は社会に出てからのスタートラインに立つための内容でしかありません。歯科医療人、口腔保健・福祉医療人として長い人生を過ごしていくには、日々進歩する学問を常に修得する必要があります。そのためには生涯学習という言葉がキーワードとなり、生涯学習のためには、自ら学んでいくという態度が不可欠です。小・中・高校では教師から与えられた教材をひたすら暗記・学習し、試験に臨むという受動的な学習形態でした。医療を目指す者にとっては、問題を発見し、自ら学習し、問題を解決していくという学習形態、問題発見・解決型学習が不可欠です。これは赤ちゃんがお母さんから食べ物をもろう、いわゆる spoon feeding から、自ら食材を見つけ、調理していく self-cooking に転換していかなければならないことを意味しています。このため、本学部では早くから

Problem-based learning (PBL) という学習方法を導入しています。この PBL では教員は学習者の補助者にすぎず、学習の主体は学生であるという概念で、学習が進んでいきます。この教育手法の主眼が「学生自身が自ら学ぶ」ということにあるのはいうまでもありません。大学教育の主役は、教員ではなくて、君たち、学生諸君です。

本年3月11日に発生した東日本大震災による被害は極めて甚大で、また福島第1原子力発電所事故とあわせて、未曾有の複合大規模災害となり、多くの尊い人命が失われるとともに、生活の場、ご家族、ご親族、ご友人を失い、避難所生活を余儀なくされている被災者の方々がまだ多くいらっしゃいます。この未曾有の災害が起これ、これから復旧、復興へと日本国民一同が力をあわせていかなければなりません。日本の復興には君たち若い人の力が不可欠であり、多くの人達が若い君たちの力を求めています。新潟大学は国立大学法人です。国立大学法人には国民の多額の税金が投入され、運営されており、君たちは国民の税金により高度な教育を享受していくことになります。諸君はこのことを常に念頭におき、国民の期待にそえるべく、努力し続けていただきたいと思います。最後に、20代前後のこの時期、勉強ばかりだけでなく、クラブ活動、ボランティア活動などさまざまな社会経験をし、歯学部以外にも多くの友人を作り、歯科医療人である前に、教養のある社会人となるよう人間性を磨いてください。そして、社会の期待に応える医療人を目指し、これから充実した学生生活を過ごされることを祈念いたします。



入学を祝して

医歯学総合病院総括副病院長 興地隆史
(歯科担当)

全国各地から入学試験の関門を突破して来られた新入生の皆さんのご入学を、心より祝福いたします。皆さんは、未曾有の震災の直後という特別な時期に大学生生活をスタートすることとなりました。被災地出身の方には、この場をお借りしてお見舞いを申し上げます。また、国家を挙げた復興への取り組みが進められている現在なお、皆さんの学生生活にも平時にない困難が多少なりとも伴っている状況かと思えます。しかしながら、将来を担う皆さんには、常に前向きであって欲しいと願っています。いずれにしても、皆さんの学生生活が楽しく充実したものとなりますことを祈念いたしております。

さて、新潟大学医歯学総合病院歯科は、前身の新潟大学歯学部附属病院として開院以来、日本海側における歯科医療の拠点として、高度かつ専門的な医療の提供を通じて地域の中で重要な役割を担ってまいりました。さらには、臨床教育の充実に向けた弛まぬ取り組みの結果として、多くの優れた医療者を輩出してきたところです。さらに、私たちの最も誇りとするものの一つは、入学直後の早期臨床実習に始まり診療参加型の臨床実習で締めくくるといって、全国屈指の実践的な臨床実習教育カリキュラムを皆さんに提供していることであります。皆さんもすでに早期臨床実習を履修し、それぞれの感想をお持ちのことと思いますが、歯科医療従事者としての自らの将来像が多少なりとも具体的なものになったのではないのでしょうか。ここで考え感じたことを忘れることなく、優れたプロフェッショナルを目指して邁進していただければと考えています。

言うまでもないことですが、歯科医療は机上だ

けの学問ではありません。歯科医師や歯科衛生士としての治療技術、あるいは患者様や周囲の医療スタッフとのコミュニケーション力など、皆さんが身につけるべき事柄は多岐に渡りますし、一朝一夕には習得しがたいものばかりとも言えます。本院では、皆さんが積極的に臨床現場に参加し、医療の実際を「肌で感じる」ことが可能な環境を提供できるよう、多くの教員が日夜努力を重ねています。将来の歯科医療の担い手である皆さんが、吸収力の豊富な今、本院での充実した実習カリキュラムを通じて、幅広い知識や専門的な技術はもちろんのこと、医療のプロフェッショナルとして必要な態度や心構えについても十分に培って頂けることを期待しています。

一方、勉強だけが学生生活でないことも言うまでもありません。むしろ、勉強以外のさまざまな場面こそが、皆さんが幅広い人間的魅力を身につける上で有意義とも言えるでしょう。皆さんはすでに環境の変化にも溶け込み、伸び伸びと毎日を過ごされていることと思います。この機会に是非、勉強以外にも打ち込めるものを見いだして下さい。部活、サークル、ボランティア活動、(過度は禁物ですが) アルバイトなど、学生時代ならではの活動への参加が、社会との接点という意味で貴重な経験になろうかと思えます。そして是非とも気の合う仲間を増やして頂きたいと思えます。大学時代の友人、何よりも苦楽を共にした同級生こそが長い人生の中で最も頼りとなると言っても過言ではありません。かけがえのない友人と切磋琢磨しながら、楽しく充実した毎日を過ごして下さい。